



旧石器の藤川コレクション

遺跡の本格的発掘調査の契機に

長さ300mmの剥離面を持つ
巨大な黒曜石も



昔々、人が生きていくために必要な生活道具を作るための石は、そのほとんどが黒曜石でした。北海道における黒曜石の四大産地といえば、白滝、赤井川、上士幌、置戸ですが、旧石器時代はこの地で石を探し、加工あるいは半加工して各地に運んだと考えられています。

置戸では、早くから石器の収集と研究にのりだしていた置戸神社宮司藤川尚位氏の依頼により、昭和31年には北海道大学医学部の児玉教授一行が長期にわたって安住遺跡の調査にあたる一方、同50年以降には拓殖遺跡調査で4万数千点の石器収集を行っています。このほか明治大学をはじめ考古学研究者が単発的に調査に入っていますが、近年では札幌学院大学の鶴丸教授率いる研究グループが置戸町内の遺跡で引き続き調査を進めています。

藤川氏が安住遺跡において採集した膨大な量の遺物（通称：藤川コレクション）は昭和31年に行われた北海道大学による発掘調査の契機となりました。また、昭和34年に氏が発表した論文『置戸



町文化財に指定された旧石器、
藤川コレクション

遺跡出土の擦痕石器の実例と細石核について』が注目され、昭和30年代後半から50年代まで多数の研究者や学生がその資料に学びました。そのことにより置戸の旧石器が考古学界に一定の認知を与え、「滑り止めに擦痕を施した」という藤川氏の論文は、現在では学界の定説となっています。

町文化財保護審議会と町教育委員会では、こうした藤川コレクションの学術的価値の高さを認め、同コレクションのうち特に資料価値の高い125点を置戸町の文化財に指定しています。

（参照：置戸町史上巻、続置戸町史）



薬物乱用防止に多大な貢献 厚生労働大臣が感謝状

北海道薬物乱用防止指導員北網地区協議会会長 小林登美さん



麻薬や覚せい剤など規制薬物の乱用防止に長年取り組んでいる小林登美さんに、このたび厚生労働大臣感謝状が贈られました。小林さんは、昭和58年に道薬物乱用防止指導員の委嘱を受けてから約30年にわたり、町内に自生する大麻の除去や、薬物乱用防止の啓発活動などに汗を流し、現在は同指導員北網地区協議会の会長も務めています。



野生大麻除去に汗を流す女性たち

「純粋に犯罪の元となる大麻を置戸からなくしたいという思いからのスタートでした。その後は女性団体など仲間の協力を得ながら自分にできることを地道に続けてきただけです。感謝状は大変光栄でありがたく思っていますし、これまで支援してくれた全ての人たちに感謝しています」と話し、「未成年や芸能人等による薬物使用事件の報道を見るたびに胸が痛みます。今後も薬物使用の恐ろしさを訴え続けていきます」と決意を新たにしていました。